

上海の船事情 （船班の報告）

中国語学科3年 佐々木 香奈

私たちの班の担当は上海において無くてはならない交通手段の一つである、船です。今回は主に、上海の浦西地区と浦東地区を結ぶ連絡船、そして市内から崇明島へ行く船について取材をしてきました。

私たち船班は全員中国語学科の3年で、メンバーは班長の吉田、小田、込宮、野坂、そして私、佐々木です。その他に上海の学生の方、張さんと王さんが全日程において同行してくださいました。班のメンバー全員が今回のような撮影は初めてで、上海にも不慣れだったため、お二人がいてくださってとても心強かったです。初日の9月9日にはまず、事前勉強として「中国船舶工業集团公司成就展」で上海においての船の歴史などについての展覧を参観しました。そこでは上海において船は、自動車や電車ができるよりもずっと昔から荷物や人を運ぶ役

割を果たしていたということがわかりました。また、その後に黄浦江を跨ぐ南浦大橋を見学しましたが、そこからは浦西と浦東を結ぶ連絡船や、現在建設中である万博会場へ資材を運ぶ土木船などが見られました。

2日目の9月10日はいよいよ船の撮影に入りました。この日は上海から船で一時間ほどのところにある崇明島まで、宝楊路埠頭から船に乗って行きました。

崇明島は日本ではあまりよく知られていないかもしれませんが、中国で三番目に大きな島で、国際重要湿地の指定を受けた湿原があり、豊富な動植物資源があるため、農業が中心産業となつていきます。

撮影の時にはメンバーそれぞれの役割分担が決まっていたため、スムーズにいったと思います。私はインタビュー担当で、始めはやはり緊

張しましたが、船内で乗客や乗務員へのインタビューを無事終えることができました。インタビューでは、現地の人が主に通勤のために船を使っているなど、生の声を聞く事ができ、交通手段としての船の重要性がわかりました。

崇明島に到着してからは、島の東部にある国家地質公園に行きましたが、そこはとても大



2009年9月9日、崇明島にて



2009年9月10日、東東線乗り場での乗船風景

会である上海だとは思えないほど空気がよく、静かで皆リラックスしていたようでした。

3日目の9月11日はとうとう撮影最終日です。黄浦江を跨ぎ、浦西と浦東を結ぶ東門路、東昌路間の連絡船、東東線の撮影に向かいました。

この連絡船は崇明島行きの船とは違い、観光客は全く乗っていませんでした。大きな荷物を抱えて乗り込む人や、オートバイに乗ったまま乗り込む人などが多く、日本では見られない光景でした。この船の乗客は、やはり仕事に向かう人が大半だったので、インタビューにもあまり時間がかけられず、とにかく早く進めなければならなかったのが大変でした。その中でも、自転車やオートバイが対岸に行く方法はこの連

絡船しかないということで、やはり船が上海人にとって欠かせない交通機関なのだと思えました。

浦東に到着してからは二階建てバスに乗り、上海のシンボルであるテレビ塔や森ビルを近くで見ることができ、浦東地区の発展を窺うことができました。

今回の上海滞在は4泊5日でしたが、実際に活動したのは3日間という、とても短い日程だったので本当にあつという間でした。撮影に入る前はうまくいくか少し不安もありましたが、メンバーそれぞれが各自の役割を果たしていたので特に苦労した事は無かったように思います。

ただ、今回上海に行って感じたのは、勉強不足だったということです。上海に撮影に行く前に日本で六本木のJETRO、横須賀の軍港巡り、それからENEOSの石油精製所に見学に行き、日本の船に関することは事前に勉強したのですが、上海に関する知識がまだ足りませんでした。

実際に現地で行った場所などについて説明されても、上海の地理や歴史をまだよく勉強していなかったために理解するのが難しかったこともありました。ですから、これからの課題は上海についての知識をもっと増やすことだと感じ

ました。

帰国してからは上海で撮影してきた映像の編集作業を行いました。この編集作業も初めてだったこともあり、どういう作品にしていくか、なかなか意見がまとまらず苦労しました。最終的には、ニュース仕立てにする事になり、なんとか作品を完成させることができました。その後は12月12日に湘南ひらつかキャンパスにおいてメディア教材制作プロジェクト発表会が行われました。発表会ではグループディスカッション形式で他のグループの作品を互いに評価しました。良い点、悪い点を客観的に見てもらうことができ、とても良い勉強になりました。DVDが完成したら、もう一度作品を見て、このメディア教材作成についての反省をして今後の活動に活かすことができ、と思います。



2009年9月11日、船班メンバー、関根先輩、王さんと全員で